

「Trio Inédit 1st Concert 活動助成」

山本航司

《Trio Inédit について》

「Trio Inédit」とは小椋千晴、山本航司、平井亘の3名で構成されたユニットです。現在メンバー全員が、サクソフォンのレベルが世界で最も高く、また常に最先端の音楽が作曲され続けているパリ国立高等音楽院に在学しています。

サクソフォンの室内楽において、Duo(二重奏)と Quartet(四重奏)はよく演奏されますが、Trio(三重奏)は作品こそあるものの、ほとんど演奏される機会がありません。

そこで、偶然同時期に音楽院に在学していた日本人3名で、Trio という新たな室内楽の魅力を発信していこう、と結成したのがこの Trio Inédit です。

Inédit というのはフランス語で「未発表の」などといった意味を持ちますが、その由来通りパリで日々作られ更新されている現代音楽を「理解しやすく」そして「楽しめるように」日本の皆さまにお届けすることを第一の目的としています。

《コンサートについて》

2023年7月25日、新大久保の管楽器専門店 DAC のスペース Do にて、1st コンサートを開催します。

今回私たちが演奏する曲目は、サクソフォンのために作曲された Trio 編成のものです。このコンサートでは、聞き手を飽きさせない新たな工夫を2つ行おうと考えております。

一つ目は「演奏者の配置」の工夫です。普通クラシックのコンサートというと演奏者が観客の前、つまり舞台の上で演奏するのが当たり前ですが、私たちは奏者を観客の横や後ろに配置し、360度様々な方向から音が聞こえてくるようなプログラムを取り入れます。会場全体を一つの舞台と考え、「今の音はどこから聞こえているのか」と観客が疑問に思うような立体的な音響効果を生み出すことにより、お客様に新たな感覚を味わってもらおうと考えております。

二つ目は「曲間の繋げ方」の工夫です。演奏会で慣例とされる礼、拍手、演奏というスタイルにこだわらず、あるときには拍手なしで突然演奏が始まり、あるときには曲間をグラデーションのように滑らかに繋げるなどして、観客に新たな聞こえ方を体験してもらおうと、このコンサートにより一体感をもたらすプログラム構成を考えます。

また、初めて開催する本コンサートは新たな試みも多く、音楽大学が集中していて、なおかつこのような前衛的なコンサートも比較的多い東京で開催することに致しました。

《目的・達成したい成果》

演奏会の目的は、私たちが普段パリで学んでいる最先端の現代音楽を母国である日本に発信し、一人でも多くの方にその面白さを体感していただくことです。これはこれからの日本

のクラシック音楽の発展にとって、大変重要な活動であると考えます。

難解とされる現代音楽、を耳だけではなく目や肌から感じる事が出来るプログラムを構成することにより、主にソロで演奏することが多い日本のサクソフォンの学生や音楽家の現代音楽の見方を変え、これからの取り組み意欲や、それに伴って必要な新たな感覚を得られる機会を提供していきたいと考えております。

またサクソフォンを専門に勉強する学生たちに向けて、このサクソフォントリオ編成での演奏を広めていきたいと思っております。

《将来の夢・今後の展望》

今後、継続的に演奏活動を続けていき、日本でも年に1度は定期的にコンサートを開催していきます。

またサクソフォンの室内楽レパートリーを広げる活動としては、多くの音楽家が高楽器のアレンジ作品を演奏することに力を入れております。しかし楽器として発展の最中にあるサクソフォンの可能性を広げるためにも、パリ国立高等音楽院や IRCAM などと提携し、現代音楽作曲家とともにサクソフォンのための作品を増やしていきたいと考えております。また、将来的には老若男女、様々な方に現代音楽に親んでもらうためのプログラムや演出を考え、コンサートを開催して参ります。「現代音楽は決して難しいものではなく、豊かで大変面白いものなんだ」ということを多くの方に知っていただき、今後日本のクラシック音楽界に貢献したいと考えております。

山本航司（サクソフォン）

山梨県甲府市出身。8歳よりサクソフォンを始める。第16回日本ジュニア管打楽器コンクール金賞(第1位)受賞。第17回ジュニアサクソフォンコンクール第2位。第6回秋吉台音楽コンクールサクソフォン部門において3位受賞。第37回日本管打楽器コンクールサクソフォン部門、第2位。東京藝術大学在学中には安宅賞を受賞し、成績優秀者に与えられるモーニングコンサートのソリストに選出され、藝大フィルハーモニー管弦楽団と共演する。また、東京藝術大学音楽学部を首席で卒業予定。またこれまで World Saxophone Congress Zagreb (2018)、Univercité Européenne de saxophone Gap (2018)などに参加し、ヤングブラハ音楽祭(2019)ではソリストとして招待され演奏。瀬木芸術財団、山梨メセナ協会、タラツツィ財団から助成を受ける。サクソフォンを飯室志津香、加藤里志、平野公崇、大城正司、大石将紀、林田祐和、須川展也、Christphe Bois, Claude Delangle の各氏に師事。東京藝術大学音楽学部を経て、パリ国立高等音楽院第1課程修了。現在はパリ音楽院第2課程にて研鑽を積んでいる。